

Green x Digital コンソーシアム 環境活動データ価値化WG

2024年3月

活動計画書

区分	項目	検討内容
基本情報	WG名	環境活動データ価値化WG
	WG設置背景・目的	<p><背景></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 脱炭素の取り組みが、企業の収益向上につながるようなサイクルが未確立で、社会全体として意識・行動変容が必要である。 ● 多様な脱炭素ソリューションが提供されているが、サプライチェーンの個々の対応が煩雑、かつIT/デジタルの活用が限定的なことにより、環境/Greenに資する活動を、効率的に「CFP」推定/算定以外の価値訴求に活用しきれていない。 ● 1つの動きとして、GXリーグで「ΔCO_2」を定義していく事を提言、経済産業省で「GX製品市場に関する研究会」が発足した。 <p><目的></p> <ul style="list-style-type: none"> ● データの環境クレジット化、実測エビデンスとしてPRやサプライチェーン向け提示等に活用、ファイナンスや補助金向け実績提示など、「ΔCO_2」等の「CFP」と観点の異なる付帯価値を訴求する「ユースケース」案を集め、データ検証を効率化する「要件」や環境/Green属性の「価値認定方法」等について検討/整理を行って発信し、社会受容性/認知度向上につなげる。 ● 「ΔCO_2」等のグリーン価値のデジタル計測・算定/検証手法の考え方を、他団体とも連携し、関連する活動に提示していく。
	メンバ構成	Green x Digitalコンソーシアム 正会員企業（49社） ※2024年3月現在
	課題	● 産業/電力分野、等の業界からの知見収集とコンセンサス、適切な制度がない場合の認証/認定制度案の設定と提言
事業内容	活動テーマ・活動内容	<p>(2023年度 4Q) MRD(市場要求書)への「認定ユースケース」等の提案募集/ブラッシュアップ、実証イメージ決定 SRD（仕様要求書） & 実装ガイドライン策定に着手</p> <p>(2024年度 ~) 実装ガイドラインの合わせたソリューションの準備～実証、実証結果/モデルケースの整理/制度提案</p>
	活動アプローチ	<ul style="list-style-type: none"> ● ①CFP算定/推定の“先の”価値、付帯価値の整理、②価値認定の効率化の要件/ガイドライン策定 <ul style="list-style-type: none"> ① 1企業/組織の各事業活動の脱炭素「ユースケース」を収集してインプットにし、「MRD」策定 ② MRD実現のためのデジタル技術やデータモデル等の要件をインプットに、「SRD/実装ガイドライン」策定 ● 関連する価値認定制度やデータ検証/認証のニーズを把握し、制度体系案やモデルケースを策定して実証や提言につなげる。

【参考】経済産業省研究会と関連記事（CFP推定と異なる観点の活動）

■ 産業競争力強化及び排出削減の実現に向けた需要創出に資するGX製品市場に関する研究会（METI/経済産業省）

■ 「グリーン商材の付加価値付け検討WG」最終報告書をリリース（GXリーグ）

GXリーグ「グリーン商材付加価値WG」では、製品が持つ排出量そのものだけでなく、製品が有するGHG排出削減価値量を「 ΔCO_2 」として評価することを提唱。そうした価値がグローバルで市場に付加価値として認識され、活用されるための業界横断の仕組みを提言する予定

■ 企業の脱炭素投資はどう評価されるべき？ 政府が「GX製品市場」の在り方を検討へ：GX（グリーントランスフォーメーション）投資の促進へ（1/4 ページ） - スマートジャパン (itmedia.co.jp)

(A) 2次データ等も活用して算定されたCFP(基準値)

2次データも活用して算定されたCFP
(基準値 = 10 ton-CO₂eq)

(B) (A)と実際の削減量の関係(削減努力を反映)

(A) - 削減量
(6 ton-CO₂eq)

削減量
(4 ton-CO₂eq)

創出されたグリーンプレミアム

(C) CFP削減スキームの詳細
(CFP削減証明書)



CFPと「 ΔCO_2 」

	CFP (カーボンフットプリント)	ΔCO_2 (デルタ シーオーツー)
定義	製品やサービスの原材料調達から廃棄、リサイクルに至るライフサイクル全体を通じたCO ₂ 排出量	従来の排出量（ベースライン）と比較して実際の取り組みによって新たに削減したCO ₂ 排出量
確からしさとコスト	商材単位の排出量を全て遡及して厳密に求めるには、仕組みの整備等に費用と時間を要する	企業が自らコミットして実際に改善した排出量は正確に算定できる
グリーン基本価値	排出量であるため数値の低さを訴求することができる	削減量であり商材の魅力や顧客のスコop 3 排出削減等の付加価値になる可能性がある
認証・ラベリング	タイプIIIラベルなどが既に実用化・普及	認証に基づく新たなラベルを提案
活用ルール	CFPガイドライン(国内)、ISO14067(国際)	現状はルールブックが存在しない

CFP削減（= ΔCO_2 の創出）のイメージ

出典：第1回 産業競争力強化及び排出削減の実現に向けた需要創出に資するGX製品市場に関する研究会（資料4）
[GXリーグ グリーン商材付加価値WG提言書案より]

【参考】GXリーグ提言書と本WGの関係

【GXL】エグゼクティブサマリー | グリーン商材の付加価値付けに関する提言書.pdf (gx-league.go.jp)

価値の整理

グリーン商材の市場形成を促すグリーンインセンティブとしては、まず、グリーン価値が見える化するとともに、グリーン価値のような外部経済については、価格転嫁が難しいことに鑑みれば、政府による経済的支援や優先購入等の仕組みが検討されることを提言。

- ①グリーン価値の見える化： ΔCO_2 のような実削減量に応じたラベル表示（ダイナミックラベリングなど）。
- ②政府による経済的支援： ΔCO_2 に応じた補助金等、 ΔCO_2 の市場取引が可能なクレジット化、グリーン商材の市場形成を促すグリーンファイナンスやサプライチェーンでの取組みに対する支援（計測や評価等に要するコストも踏まえた支援）、グリーン商材の研究開発への支援。
- ③優先購入：政府調達での優先購入、民間の自主的な優遇購入の推進。

認定ユースケース整理と削減実績提示の効率化

第一に、グリーン価値の評価について、実排出量に基づく正確な計測を行うと同時に、計測、表示、認証に伴うコスト増加を抑制するため、デジタル技術を用いた仕組みの積極的な活用、サプライチェーンの企業間でのデータの相互利用の促進を提言。

特に、表示については、 ΔCO_2 のような継続的な改善量を表示する方法として、ユーザーへの訴求の観点からも有効であるスマートデバイスとQRコードを用いたデータを参照するラベリングの方法（ダイナミックラベリング）を、認証については、第三者認証を効率化しコストを合理的な水準にとどめるため、具体的な案件ごとではなく計測・評価の仕組みに対する認証方法（ユースケース認証やシステム認証）を活用することを提言。

- Green x Digitalコンソーシアムの「環境活動データ価値化WG」では、このGXリーグが提言している**グリーン商材（製品やサービス）とグリーン価値**の考え方を起点として、企業活動（調達/製造/提供/運用やプロジェクト、等）を通じての**削減実績の提示**のための、**計測・算定、データ検証手法、認証/認定**について、**デジタル技術などを用いた効率化の考え方**を、他団体の活動を補完する形で提示していく。